

「奨学金に関するアンケート調査」記入意見より

せっかく大学を出ても地元では就職先が無いので選べない。やっと就職したと思っても安い給料で自立すらできない。進学前は希望でも卒業時は絶望に変わった。

28歳男性・非正規(奨学金利用者)

自分に奨学金と言う借金がある以上、結婚は出来ない。(配偶者に借金を背負わせることになるので…。)このままだと出産時期を逃しまいそうで怖いです。

26歳女性・正規(奨学金利用者)

日本育英会のイメージしかなかったのが、現実を知るにつれ、社会的なものとして促していかないと、貧困・格差をさらに助長していくのではと危惧する。

58歳男性・正規(奨学金利用者)

このままいいのか!?



借りた時は働いて返済できる予定だったが、現実はシングルマザーで幼児をかかえ、正職員の道はなく少ない収入で将来が不安。25歳女性・非正規(奨学金利用者)

出産・子育て中で仕事をしていかつたため返還が滞り大変だった。

29歳女性・正規(奨学金利用者)

本来は大学に進学の予定だったが返還しながら行くのは苦痛だと思い進学できなかった。

19歳男性・正規(奨学金利用者)

有利子である理由がわからない。公的機関なら無利子で貸すのが存在意義では? 21歳男性・正規(奨学金利用者)

日本の教育費は高い。特に大学の学費を考えると生活を圧迫し、奨学金に頼らざるを得なくなる。結果的に子供に負担をかけてしまう。

32歳女性(奨学金利用者)

教育の差は親の収入に大きく影響され、負の連鎖が代々続く事が多くなっているように感じる。貧困の差が、教育の差や就職の差につながらないような救済意義の強い制度の構築が必要だと思います。

39歳男性・正規

社会人スタートとともに多額の借金を背負う形では、将来への不安が大きすぎると思います。それが結婚、出産への不安にもつながる。また、場合によっては費用(子どもの貧困)の問題につながるのではないか。

37歳女性・非正規

変えよう! 奨学金

アンケートから見えてきた 奨学金問題



変えよう! 奨学金

みんなで声をあげ、
奨学金制度を
変えていきましょう!



1. 貸与から給付へ ~ 本来の奨学金に ~

大学等において国の給付型奨学金制度を導入し、高校を含めて拡充しよう!

2. 貸与型奨学金の改善

- ◆ 利息・延滞金のない、無利子の奨学金を! (せめて返還金は元金から充当して!)
- ◆ 所得に応じた無理のない返済制度をつくろう!

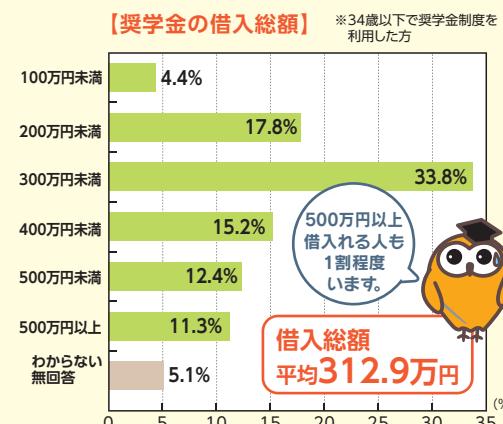
3. 大学等の学費の引き下げや 授業料減免の拡充を!



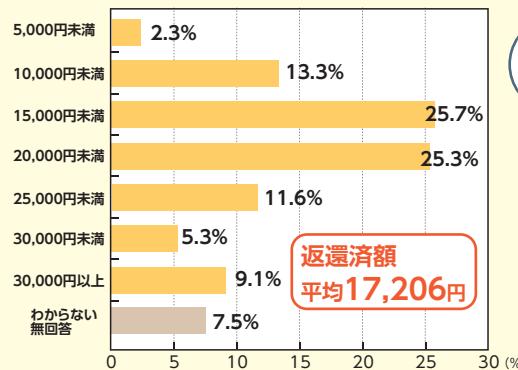
借金を背負って社会へ

借入総額は平均312.9万円、返還期間は平均14.1年

日本の奨学生は、そのほとんどが貸与型であり返還の必要があります。その借入総額は平均312.9万円、返還期間は平均で14.1年にも及びます。家庭の経済状況によりやむなく奨学生を利用した人は、社会人スタート時から借金というハンデを強いられることとなります。月々の返還額は平均1.7万円ですが、年収別でも平均返還額に大きな差はみられません。収入が少ない人ほど返還の負担が生活を圧迫する状況にあります。

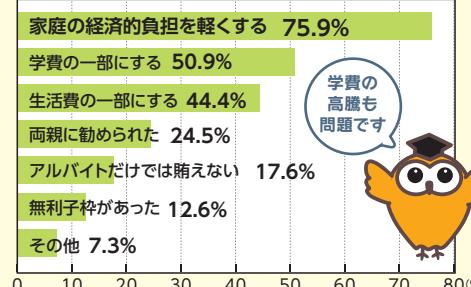


【毎月の返還額】 ※34歳以下で奨学生制度を利用した方



重すぎる学費の負担

【奨学生を利用していた理由】 ※34歳以下で奨学生制度を利用した方・3つ以内選択



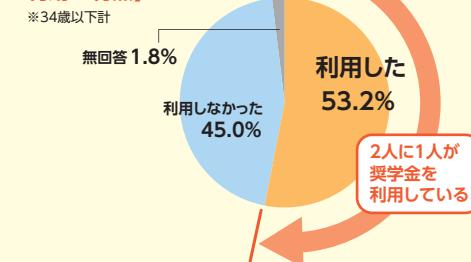
4人に3人が「家庭の経済的負担軽減」のため利用

高等教育の学費が高騰し、家計収入が低下する現在の状況では、もはや奨学生を借りざるを得ません。奨学生の借入額の多い学生や自宅外に住んでいた学生は奨学生を生活費にも充当しています。やむをえず自宅外通学をする場合、高額な学費に加え生活費もかかり、かなりの金銭的負担を伴います。

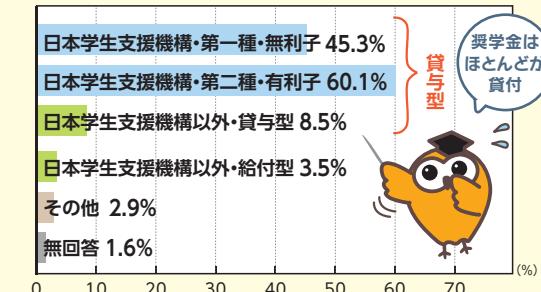
2人に1人が奨学生を利用

34歳以下では2人に1人が奨学生を利用し、その6割が有利子奨学生です。有利子と無利子を併用する人もみられます。学歴別では、高卒では1割程度、大卒では5割前後、大学院卒では7割の人が利用しており、学歴の高い人ほど奨学生を利用しています。また、有利子奨学生の利用が最も多いという異常な状況です。

【学生時代に奨学生制度利用の有無】



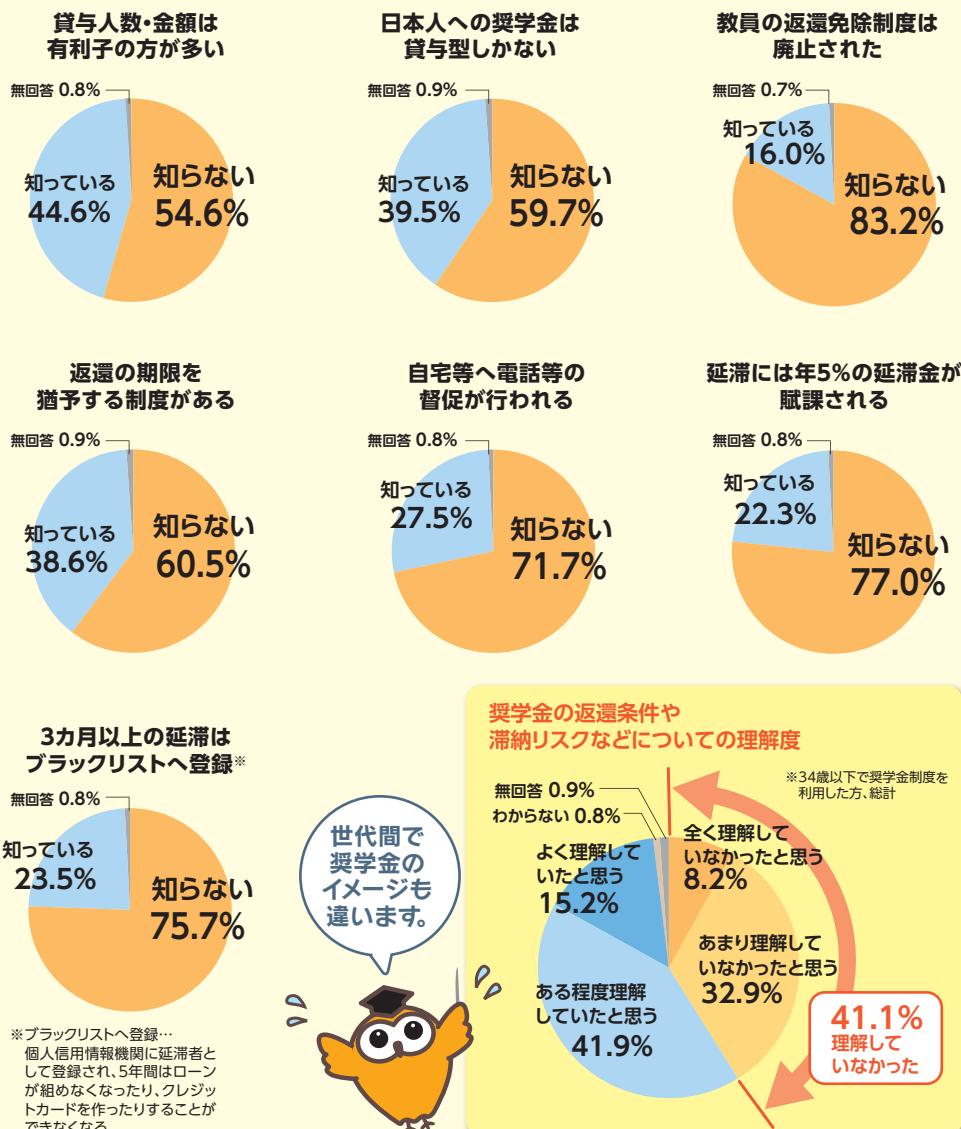
【利用していた奨学生の種類】 ※34歳以下で奨学生制度を利用した方・複数選択



知られていない奨学金制度

奨学金の運営は、2004年の日本育英会廃止により日本学生支援機構へ引き継がれました。これにより制度自体も大きく変わりましたが、その内容はほとんど知られていません。奨学金を利用した人でも奨学金制度の内容を知らない人がたくさんいます。さらに、奨学金の返還条件やリスク等でも34歳以下の利用者の約4割が「理解していないかった」と回答しています。奨学金を借りる際の説明や返還が困難になった場合の相談など、日本学生支援機構が責任を持って対処することが必要です。

【現在の日本学生支援機構(日本育英会の後身)の奨学金制度を知っているかどうか(総計)】



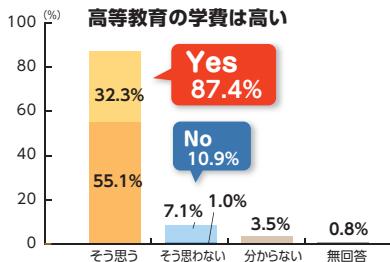
教育や奨学金制度に対する意識



高等教育は高いという共通認識

教育に対する意識では9割弱の人が「学費は高い」と回答しています。また「奨学金返還は返済能力を考慮すべき」「家庭の経済力の差が教育の差を生む」と考える人も多数に上ります。一方で、「高等教育の授業料は無償化すべき」「高等教育の学費は本人が負担すべき」「借金をしてでも大学に進学すべき」は評価が二分されており、教育は自己負担と考える人も多いといえます。「公的奨学金は給付にすべき」では6割の人が肯定的ですが、若年層で慎重な意見が多くみられました。

【教育費の負担や奨学金について(総計)】



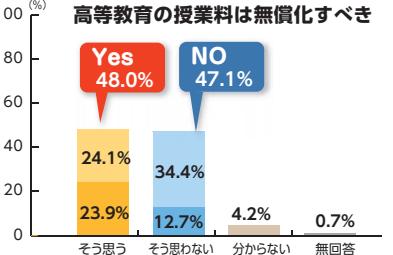
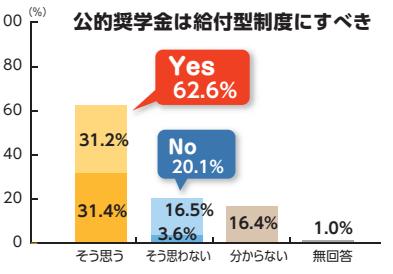
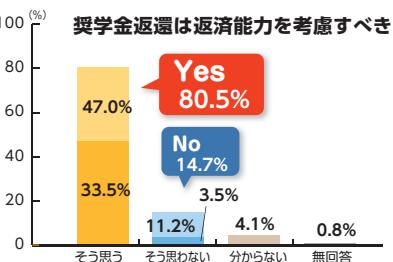
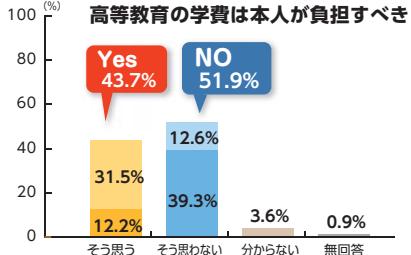
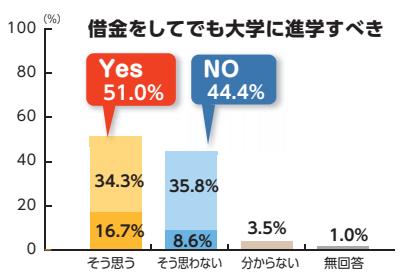
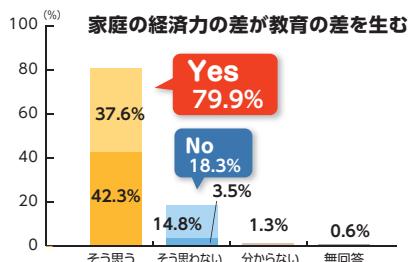
参 考

大学授業料・初年度納付金 (平成25年度文部省調)

■国立大学(標準) /

授業料：535,800円、初年度納付金：817,800円

■私立大学(平均) / 摂帶料 262,272円、初年度納付金 1,312,526円

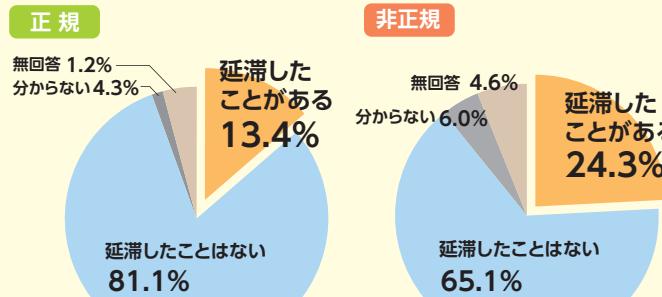


延滞の有無

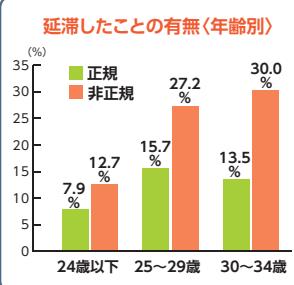
非正規労働者では、4人に1人が延滞を経験。

「延滞したことがある」と回答した人は、正規労働者の13.4%に比べ非正規労働者は24.3%と多くなっています。また、年齢が上がるにつれ正規労働者と非正規労働者の延滞経験者数の差が大きくなっています。また、親が返還しているケースも1割程度あります。延滞や自分で返還していない理由は「収入が少ない」「雇用や収入が不安定」「失業している」といった内容です。

【返還を延滞したことの有無】



※共に34歳以下で奨学金制度を利用した方

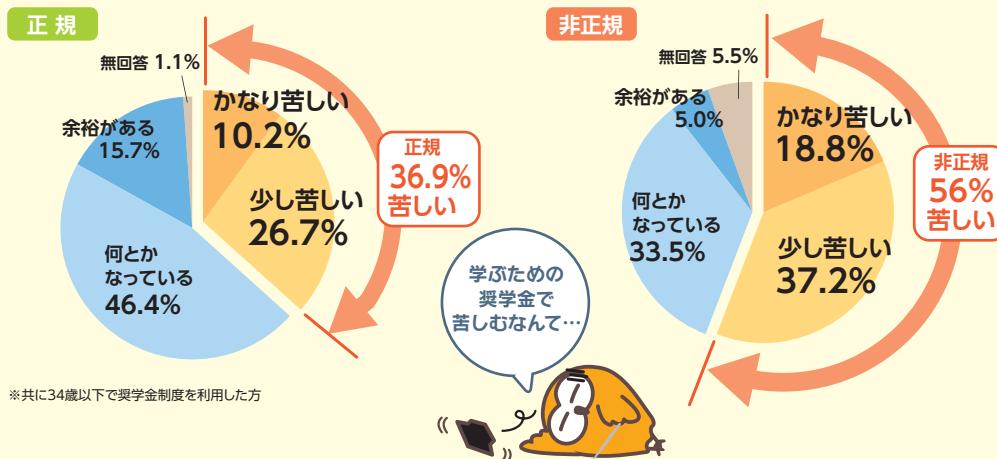


苦しい奨学金の返済

返還が「苦しい」とする人は全体で4割弱、非正規労働者では56%と半数を超えていいます。

また年収300万円未満では5割前後、借入額500万円以上では6割の人人が「苦しい」と回答しています。低賃金・不安定雇用が続く現在の社会では、苦しい返済を強いられます。

【返還の負担感】



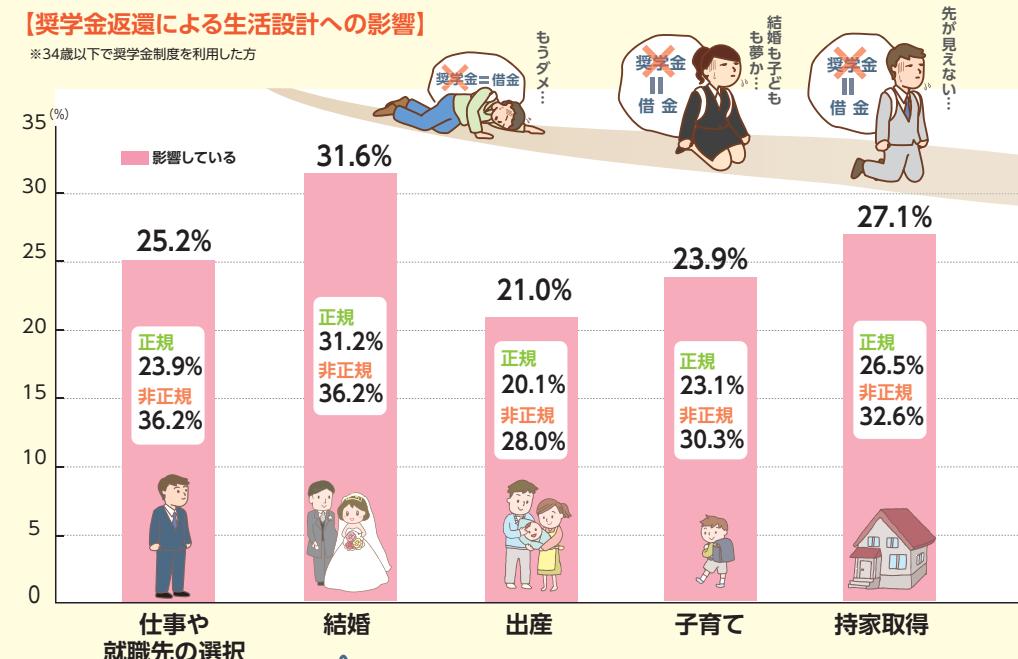
返還が「結婚」や「出産」などに影響

少子化・人口減少へ?

返還による生活設計への影響は非正規労働者において高く、また若い世代ほど高く、とりわけ20代での影響が目立っています。「結婚」への影響は全体で31.6%ですが、借入額からみると500万円以上の正規労働者、200万円以上の非正規労働者では5割にも達しています。また、各質問項目で「わからない」と回答した人も多く、実際のライフイベント時の影響度はさらに高いことが想定されます。若者にとって奨学金返還の負担は大きく、将来の生活設計の見通しが立ちにくくなっています。結婚や出産への影響は少子化・人口減少へつながりかねません。今の状況が続けばこの社会は成り立たなくなります。持続可能な社会へ向け、早急に奨学金制度の改善が必要です。

【奨学金返還による生活設計への影響】

※34歳以下で奨学金制度を利用した方



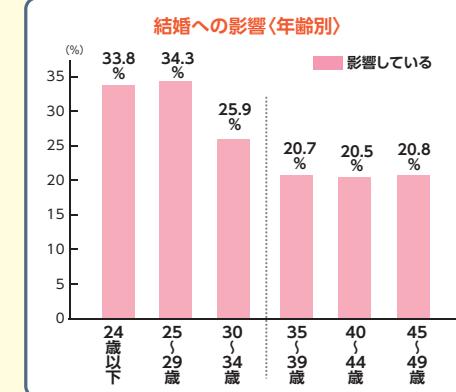
就職先の選択

結婚

出産

子育て

持家取得



【奨学金に関するアンケート調査結果より作成】

アンケート実施概要

- 配布数/17,981枚
- 有効回収数/13,342枚
- 有効回収率/74.2%
- 集計分析/労働調査協議会(労調協)
- 調査対象/勤労者